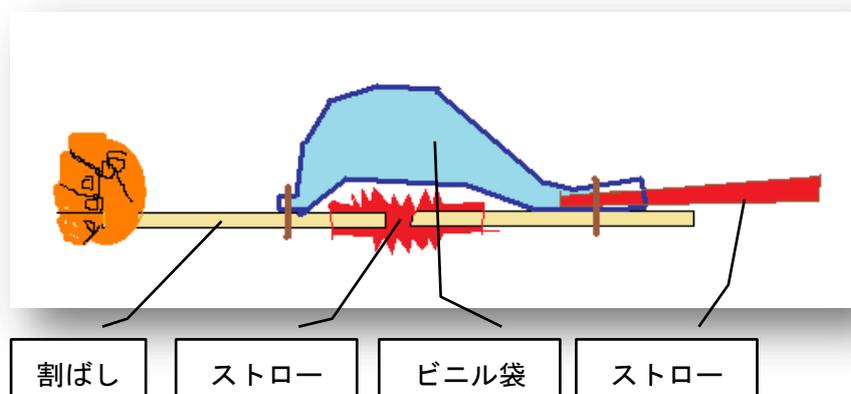


腕が動くしくみがイメージできる簡単モデルを作ろう

(1) 単元の流れ

第1時	人のからだの動くしくみについて話し合い、腕が曲がる場所、やわらかい場所や堅い場所を自分の腕を触って観察し、気付いたことを記録する。
第2時	腕が動くしくみを説明するためのモデル作りをする。
第3・4時	人のからだの全身の骨や筋肉のつくりと動き方について、骨格標本や写真資料を使ってからだ全体の骨や筋肉、関節の様子を調べる。
第5・6時	人以外の動物のからだのつくりと動き方をウサギや鳥の骨（ニワトリの手羽先）を使って調べる。

(2) 簡単モデルの作成方法



上図に示したように、腕が曲がるしくみがイメージできる簡単モデルを子ども一人一人に作成させる。

【材料】 □割りばし一膳 □ビニル袋（Sサイズ） □曲がるスロー2本 □輪ゴム2本
□手のイラスト

ストローから息を吹き込むとビニル袋がふくらみ、割りばしが90度ぐらいに傾く。またビニル袋から空気を取り除いていくとビニル袋がゆるんで割りばしが平らになる。このモデルは腕が動くしくみの一部をモデル化したものであり、腕が動くしくみのすべてを網羅するものではない。しかし、このようなモデルを作る活動を通して、腕が動くしくみをイメージすることができる。

材料費も安価であり、子ども一人一人に簡単にモデルを作らせることができる。

(3) 手羽先の観察

最後は、手羽先の観察をお勧めする。ここまではモデルの利用を通して、体のつくりを学んできたが、やっぱり実物の観察は大変効果的である。手羽先は安価なので、二人に1つの手羽先を準備しても安価ですむ。子どもが大変興味関心を示す活動となるであろう。自分の腕の動き、自分で作成したモデル、そして手羽先での観察結果を関係付けて考え、体のつくりと運動とのかかわりについての見方や考え方をもちたい。



(所属：福島市立三河台小学校 金子優子)